令和元年度　第２回下越地域医療構想調整会議［書面開催］　主な意見

１．実施方法

具体的対応方針の再検証対象となった県立坂町病院及び県立リウマチセンターが作成した資料（「資料１－１」及び「資料１－２」）、下越圏域医療機関事業計画一覧（「資料２」）等を構成員に送付し意見等をとりまとめた。

（期間：令和２年３月６日（金）～１９日（木））

２．主な意見

＜県立坂町病院についての意見＞

・ 地域医療に大きく貢献している。医師が十分確保されていないために、病院としての能力、機能が発揮できずにいる状態であり、こうしたことが厚労省からの指摘に繋がったものと推測される。規模が大幅に縮小となれば、周辺地域では地域崩壊につながるものと考える。

・ 病院を廃止することは地域の医療崩壊を招くことになりかねない。しかし、今後医師の充足は期待できず、病床の削減はやむを得ない。積極的に訪問診療を行っているが、関川村の医療体制、冬期間交通事情等を鑑みて、削減病床を介護医療院への変換も視野に入れる必要がある。また、透析医療は移動距離的な問題があり、透析を行う医療機関としての存在は必須である。

さらに、胎内市以北の整形外科疾患の治療体制から見ると、中条中央病院、村上総合病院と協力し、整形外科疾患等のリハビリ施設としての活動も視野に入れるべきである。

・ 今後ますます人口減少及び少子高齢化に拍車がかかり、住民が安心して暮らせる地域作りに不安がある。坂町病院は地域にとってなくてはならない医療提供病院になると思うが、診療所の機能と訪問診療に重点を置いて機能する病院作りを検討するのも良いと考える。

・ これまでも地域において近隣の住民からの信頼を得、有効にベッドが活用されてきたということは言を俟たない。今後の予想される各地域での自然災害や感染症の拡大等を勘案すれば、これまでどおり、もしくはそれに限りなく近い形での医療活動を期待する。

＜県立リウマチセンター病院についての意見＞

・ リウマチ疾患に特化した病院であり、厚労省の指摘する再検証要請には合致しないものであり、指摘は不適切と考える。ただし、リウマチ疾患に特化するのであれば、組織をセンター病院として独立したものでなく、新発田病院付属のリウマチセンターとしても十分機能するのではないかと推測する。

・ リウマチ疾患に特化した形での存在は重要であるが、リハビリは、リウマチ疾患に特化したものではなく、新潟聖籠病院や豊浦病院が新発田病院の後方病院として積極的にリハビリに対応しており、リハビリの病床の削減は可能ではないか。また、リウマチセンター病院自体を、新発田病院付属としての組織変更し、可能な限りリウマチ科の医師も、救命センターでの活動に加わっては如何か。
・ リウマチセンターは専門化に特化した病院を目指しているようだが、新発田病院との合併の中で、リウマチ科を設置し医療を提供できればより充実した機能で対応できると考える。
・ リウマチの専門病院として下越圏域のみならず県民にとっても重要な役割を担っているため専門的機能の充実・発展を願いたい。

＜その他の意見＞
・ 地域医療構想は純粋な意味で、今後の医療体制を構想する場であり、県立病院の財政難とは切り離して考えるべきである。
・ 坂町病院、リウマチセンターとも、地理的な実情や診療科の特殊性をかかえ、具体的な方向性を計画することが難しいと思う。各医療機関間の病床数等の調整には、今回、厚生労働省から示されている分析データも検討のきっかけになると思う。検討の進め方についても、地理的な実情、近隣の医療機関の状況、診療科の機能などの特殊性について、でき得る限り数値化できるものは数値化して（見える形にして）議論の証跡として残すのが良いと考える。
・ 国の基本的な考え方として、「公立・公的医療機関等については、地域の医療需要等を勘案し、地域の民間医療機関では担うことができない機能に重点化していただくよう、将来に向けた担うべき役割や病床数の具体的対応方針を策定し」とあることから、下越圏域の病院においては、必要と考える病床数を維持していただきたい。また、国・県には、民間委託等になったとしても必要な医療が維持できるよう、財政面や医師確保等の支援を行っていただきたい。
・ 2025 年に団塊の世代が後期高齢者となり医療費が増えることに対し、抜本的な手を打たずに、病床削減、医療費を削り、その分在宅の家族に負担をかけるということこそ、一見医療費の削減につながるように見えるが、この地域の高齢者人口の増加やマンパワーの減少などを考えると、このやり方に限界があると思われる。
・ 「公的な病院・施設」と「民間の病院」では役割や存在意義が異なる。基本的にはまず第一に、自助努力で経営を継続する私的病院と、一方では赤字になっても懸命に人の命を救う「国民の命綱」「最後の砦」ともいうべき公的病院の両者とも、人々が健康で幸せに生きていく上で必要不可欠である。このような医療の本質を忘れ、これらを財務面のみで整理するという発想法自体、いかがなものであろうか。